西東京市市民協働推進センター

平成 28 年度第 3 回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成 28 年 6 月 21 日(火)午後 7 時 00 分～9 時 00 分
■開催場所：イングビル 3 階第 1、2 会議室
■出席委員：池田委員、紺野委員、坂口委員、佐藤(文)委員、佐藤(留)委員、鈴木委員、谷委員、富沢委員、中村委員、藤江委員、＜以上 10 名、五十音順＞
■事務局　：内田センター長、佐藤副センター長、板垣、小平福祉活動推進課長、妻屋地域福祉推進課長補佐兼係長、八阪主事

○ゲスト紹介

本日のゲストの西東京ボランティア・市民活動センター（以下、ボラセン）運営委員長およびボラセン主任の自己紹介があった。

1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、5 月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委　員：登録更新を行わなかったそれぞれの団体側の理由を教えて欲しい。

事務局：5 団体のうち、3 団体は少なくとも西東京市での活動を停止したことが理由である。1 団体は実質的な活動を停止し、市内の子育て関連団体に活動を移行していると聞いている。残りの 1 団体は団体名称が営利企業と同じ名称でクレームを受けたため、現在活動を休止している。

2．6 月以降の事業について

事務局より、6 月以降の実施事業について説明があった。

委　員：6 月 18 日避難所運営ゲームには参加していないので削除してほしい。

委員長：IT コラボ勉強会の参加人数を教えて欲しい。

事務局：7、8 人でスタートする話だったが、初回参加は 5 人だった。今回は 2 人の参加に留まった。今後、年齢の若い参加者や女性の方の参加も積極的に考えていきたい。

委員長：今年度の NPO 市民フェスティバル実行委員会に運営委員は参加しているか。

事務局：今年度はいない。

委員長：事務局から NPO 市民フェスティバル実行委員会の状況を適宜報告して欲しい。

３．広報・PR 事業について

事務局より、ホームページリニューアル業者の選定結果について、説明があった。

委員長：今後、業者からあがってきたホームページ案を見ていくことになると思う。選考された業者は、ワードプレスのブログシステムを立ち上げ、コンテンツをうまく利用して作り、本も出版している。ワードプレスについては第一人者の会社である。事務局とのやり取りはこれからなのか。業者名は公開してもよいのか。

事務局：契約はこれからなので、現時点では業者の社名等についてはここだけに留める。

委員長：ホームページ制作の途中経過などは運営委員会に報告いただけると思うが、アイデアやコメントなどもいただくことは可能か。
事務局：明日打合せがあるので、先方の意向を確認し、委員長の意向を反映できるようにしたい。
委員長：可能であれば、適宜見せて頂きご報告いただきたいと思う。

2. 審　議　事　項

1. 前回の会議録について

委員長：今週末までに意見がなければ、確定稿とする。

3. 協　議　事　項

1. 重要事業の企画について

事務局より、IT コラボ講座の企画案について説明があった。

委員長：この講座を提供する団体のアプリは大変評判がよく、各地で紹介されている。
委　員：そのアプリはこの団体が開発したのか。
事務局：この団体が開発している。おそらく技術ボランティアの協力があったと思う。
委　員：この講座の講師は既に決まっているのか。
事務局：決まっている。
委　員：このような企画はこれだけで終わるのはもったいない。この後に続けていくことが大切であると考える。
事務局：後半に意見交換の場も設けているので自由に話していただき話を深めてもらいたい。IT コラボ勉強会にもつなげたい。
委　員：これまで関わってこなかった人に広がることには賛成で、そのきっかけとして IT を使うのも理解できるが、本来の狙いとしては西東京市でもプロボノができる人を見つけ IT を活用できる人を増やし、いろいろなニーズに合わせて IT を活用して地域の事情に合わせて作り込んでいくことが狙いではなかったか。
事務局：後半のアイデアソンという形で意見交換を行う予定だが、その中の意見や意見交換を大切に汲み取っていき、IT に限らず課題解決に結び付けていければと考えている。
委　員：講座対象が妊産婦ということであれば、講座の開催時間が少し長いのではないか。
事務局：今回の講座を依頼している団体とも相談し細かく時間設定しているが、妊婦さんの体調には十分配慮したい。
委員長：託児は付けるのか。この企画では託児を設けることを検討すべきではないか。
事務局：前向きに検討する。
委員長：子育て団体など、広報先を是非考慮して進めてほしい。

事務局より第 8 回 NPO 市民フェスティバル開催までの流れについて説明があった。

委員長：前回は非常に沢山の参加者や来場者に見ていただいてよかった。今年度もこの流れを受けての開催と考えている。運営委員会から NPO 市民フェスティバル実行委員会（以下、実行委員会）に提案をして決定していただく流れになると思うが、何かご意見はあるか。
委　員：実行委員 20 名のうち、一般市民は 13 人参加というのは非常によいことだと考える。その方たちはどんな経緯で参加するのか。

事務局：実行委員募集チラシによる応募はなかった。昨年開催した地域デビューシリーズの参加者や今年開催した地域活動紹介ゆめサロン「まちめぐり」に参加された方に説明し参加していただくことになった。昨年の地域デビューシリーズから引き続き「おとぱミディサロン」に参加していただいているメンバーの参加もあった。団体に所属している7名の参加もあり、一般の市民の意見と団体の意見も組み入れてNPO市民フェスティバルの内容を検討できると考えている。

委　員：アスタ会場では一般の人には見てもらえるが、活動にお誘いできる人に来てほしいと考えているので、呼びかけ方法を強化してほしい。また、会場が狭いので参加団体が増えた場合、どうするのか。

事務局：パネル20枚と限られており、全部使用したとして40団体のパネル展示は可能であると考える。前回はパネル7枚をステージに使用したが、レイアウトなどを検討してできるだけ多くの団体に参加してほしいと考えている。今年度もアスタ会場での開催であれば参加したいという団体も多数あり、その対策を実行委員会で考えていきたい。前回最終日には「おとぱツアー」を行ったが、常に一般の来訪者が途切れることなくあった。今年度は全体の説明ができるコンシェルジュのような人材を2日間常時会場に置くことで当日参加申込も念頭におき「おとぱツアー」の受付ができるようにするべきではないかという意見もある。今後の実行委員会で話し合っていきたい。

事務局：展示団体を増やす方法として、団体数はパネルを2枚増やし4団体増やせるが、それが限度と考えている。2日で8団体増やせる可能性はある。また、パフォーマンスか展示かどちらか一つだけ選んでもらう方法もある。

委　員：一般市民の参加は多かったが、参加団体同士で交流する場も考慮してほしい。参加団体の荷物の置き場もなかったので、控室が借りられると団体の交流も可能ではないかと思う。検討してほしい。

委　員：アスタの4階に別室がある。

事務局：前回、パフォーマンスでの着替えや控室としてその別室を借りた。その別室は、マンション住民のための集会所であるため、2日間続けて借りることができなかった。したがって着替えが必要なパフォーマンス出演団体を最終日の1日に絞った経緯がある。荷物置き場に関しては団体からたくさんのご意見をいただいているので考慮しなければならないと考えている。

委員長：イングビル会議室を団体の荷物置き場や控え室として使用するのはどうか。

事務局：会場から距離があるので、どのように利用できるか考えていきたい。前回は着ぐるみの着替え場所として考えたが移動しなければならないので使用できなかった。

ゲスト：西東京ボランティア・市民活動センター（以下、ボラセン）が開催しているボランティアの集いについては、NPO市民フェスティバルと共同開催を検討すると事務局から聞いた。今年度は検討の結果、共同開催は見合わせると聞いている。ボラセンの運営委員会が来月にあるので、まだ報告はしていない。ボラセンは共同開催をする方向で考えているので、ご説明になったようにボラセン自体が1参加団体となるということは考えていない。このことに関しては、事務局と調整する必要がある。来年のこともあるので、ボラセンの事務局と運営委員もNPO市民フェスティバル実行委員会に参加させてもらった方がよいと考えている。

事務局：ボラセン事務局から、今年度は1団体として参加すると聞いていた。

ゲスト：両方が共同で運営していくことを考えてほしいが、このことに関してはボラセンも事務局側と話し合うこととする。

委員長：両方とも西東京市社会福祉協議会（以下、社協）が事務局なのだから、社協の中での調整やそれぞれの実行委員会や運営委員会との調整などが必要と考える。今年は共同開催はできないと聞いている。今後のこともあるのでボラセンの運営委員の方にも是非実行委員会に参加してもらうとよいと思う。ところで、交流会とは、当日参加する団体だけが対象なのか。

事務局：前回は、NPO 市民フェスティバル最終日に開催した。「おとぱツアー」参加者と参加団体が個別に話し合う場として交流会を設け盛況だった。

委員長：せっかくたくさんの人が集まるのだから、団体同士の交流も図れるようにしてはどうか。参加団体だけではなく、参加しなかった団体にも呼び掛けて、NPO 市民フェスティバルの打ち上げという意味合いではなく、NPO 同士の交流会という位置づけであってもよいと思う。このNPO 市民フェスティバルの目的が市民の参加を喚起し、輪を拡げる機会としているので、このイベントや交流会に参加した後に、どれくらいの市民が活動に参加したかや関わりを持つ人が増えたのかがひとつの評価指標となる。今年度はそれをひとつの評価指標として作り込みの中に入れ込んでいくとよいと思う。

委　員：パリコレではメインの会場以外のところでもいろんなことをやっていると聞く。アスタセンターコートをメイン会場とすれば、別の場所に会場を設けいろいろなことをやっても面白いと思う。地図などで会場情報を共有できるようにして、町中のあちこちで NPO 市民フェスティバルをやっているようなイメージを実行委員会でも考えてほしい。昨年は、「子ども文化フェスティバル」が別会場で開催されていて、その会場からも人が流れてもきた。別会場でのイベントは登録団体を巻き込んでやっていくことも１つのアイデアだと考える。

委員長：広報関係で意見はないか。ホームページをリニューアルするタイミングなので、NPO 市民フェスティバルの特設ページをつくって紹介するのもよいと思う。情報をシェアしたり、フェイスブックを使って拡げたりできる。逐次、いろんなアイデアを出してほしい。NPO 市民フェスティバルはあくまで実行委員会が中心となるが、運営委員会の意見からいいとこ取りをしていただければと思う。この点を実行委員会の皆さんにご理解していただき、進めてほしい。

（以下、ボラセンについての紹介があった）

ゲスト：この時期は夏のボランティア登録にむけて活動をしている。登録者は若干減少傾向にある。

ゲスト：個人登録者数は現在 411 人、退職された 60～70 代中心となっている。主婦層も多い。前年度から 100 人減で課題となっている。新しい人材にいかに関心をもっていただけるように働きかけるかが課題となっている。西東京市の人口から考えれば、ボランティアが 2000 人いてもおかしくないと言われている。登録数が少ないことだけが問題とは思わないが、登録者数を増やしたいと思う。東京都も東京オリンピックにむけて、中高生の参加を促し盛り上げていくために予算をつけている。

委員長：活動をしようとする人を巻き込んでいく窓口には２つある。ゆめこらぼのような中間支援センターは全国に約 400 あり、それ以外にボラセンもある。西東京市にはボラセンと中間支援組織のゆめこらぼを社協が運営しているので、是非うまく連携していきながら都内のモデルケースとなるようにしていただければと思う。

委　員：ボラセンでのボランティア登録者とニーズとのバランスはどうなのか。

ゲスト：充分なニーズがない。ボランティアが余っている状態である。

委　員：災害時にボランティアは絶対に必要となるので、そのコミュニティも大事にしてほしい。
委　員：託児のボランティアをお願いしているが、ボラセンに登録していても託児をするのであれば研修等を受けてからやってほしい。
委　員：市民活動での活動ボランティアを頼むことはできるのか。
事務局：できる。手続き的なことだが、直接ボラセンに来ていただくか、ホームページから申し込みをしていただければボランティア申請はできる。
委員長：協力し合って進めてほしい。

4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

日時：7月19日（火）19時～20時30分
会場：イングビル3階　第1,2会議室